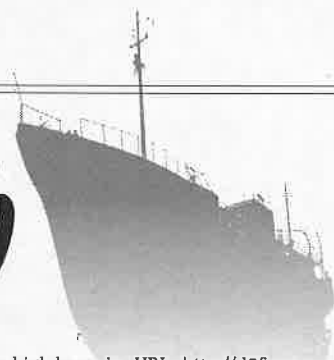


2004.02.01  
No.305

# 福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



## なおつづくマーシャルの人びとの被害

ロンゲラップの人びとは一九八五年五月、自分たちで決断し、「将来の世代のために」島を出た。豊崎博光氏撮影



五〇年にあたって思うこと

## マーシャルからの啓示

前田 哲男

初めてビキニ環礁に行ったのは一九七四年だった。「三・一被災」から二〇年目である。その時には、以後六年、一回もマーシャル通いをしようなどとは思ってもしなかった。

正直いって、最初はおっかなびつくりの気持ちがあった。当時、ミクロネシア全体が「米政府を施政権者とする国連信託統治領」とされ、ビキニ周辺は、核実験のための「閉鎖地区」として隔離されていたからだ。CIAが目を光らせているという噂もあった。

だから、マーシャル諸島マジロ港から「ヤップ・アイランダー」という小さな便船に乗って一〇日目、はるか水平線上にビキニの島影を認めるときは、何か一仕事しただけのような高揚感を覚えたものだ。ついにやってきた！

CIAによる尋問こそなかったが、島の印象は事前の予想を越えていた。椰子林はまばらで背が低く、全体の色彩は緑より灰色にちかい。「安全宣言」がなされたにもかかわらず帰島に応じたのは五家族だけで、弾けるような子どもたちの歓声も聞けなかった。「椰子はまだ実をつけない。ヤシガニは食べてはいけない」といわれている

老人は寂しそうだった。四年後の「ビキニ再閉鎖」により、この人も、また立ち去らねばならなくなる。

島を圧していたのは、核実験観測用につくられた巨大なコンクリートの建物群で、いたるところにおさまる残骸をさらしていた。日本から持ち込んだポケット線量計を壁に近づけると、けたたましく鳴り響いて真昼の静寂を破つ

(2めんにつづく)

(「めんからつづく」)

た。東京で測ったのとはまるでちがう高い数値だった。

しかし、私たちの目的はビキニではなかった。写真家・島田興生と私が知っていたのは、一九五四年三月一日、死の灰が島中に降り積もったロンゲラップ島が、いまだんな状態なのかにあった。放射性降下物の人体と環境にもたらす後遺的影響がそこに現れていると考えたからである。

\*

ビキニを出たあと、船は、第五福竜丸が操業していた海域を静かに通過して、一九〇km東に位置するロンゲラップ環礁の礁湖に入った。すこし大げさに言うと、この旅で、私たちは「二つの地点」を最短距離で結び合わせたのだ。

ロンゲラップには四週間滞在した。人口一五〇人ばかり(被爆時は八二人)の小さな共同体。ホテルも商店も食堂もなく、一切を島人の好意に甘える居候生活で、パンの実、椰子汁、魚の塩焼きを振る舞われながら、「あの日」と「あの日以後」の話を、毎日

食い入るようにむさぼり聞いた。

被災状況については「米原子力委(AEC)報告」にある程度記述されているのだが、名前の多くが番号で示され、家族関係や「その時」何をしていったか、といった生活の匂いはほとんど記録していない。そこで家族図の作成に取りかかったものの、全員が大きな親族ともいえるこの集団では、養子や一時寄寓、他島居住などの複雑な家族関係が常態なので、同じ家を何度か往復しつこく聞き取らねばならなかった。しかしそのおかげで、平穏だった生活を突如襲った災厄、得体の知れない病気で家族のきずなが絶たれた悲しみ、その後もつづく健康不安など、痛切な体験を『棄民の群島』に描くことができた。

\*

島について二日後、ナポリ・オエミさんが死んだ。あの朝、投網を肩に礁湖の魚を見つめていた四三歳の屈強な海の男は、白いシーツの上小さく縮こまって、あえぎ

ながら息を引き取った。

「私が死ぬのはあの爆弾のせいなのだ。お前たちも気をつけなさい」

妻のセーラと娘二人にそう言い残したという。

偶然にも埋葬式が八月六日だった。樞が珊瑚礁の穴に収められるとき、猛然たるスコールが降ってきて、喪服の遺族たちは、白い紗の幕に包まれた。今もつてその光景が忘れられない。私にとつて「ビキニの啓示」だと思っている。

\*

あれから五〇年。日本人のビキニ研究は、島田興生や豊崎博光の世代に、竹峰誠一郎や中原聖乃ら若い学者も加わり厚みを増している。とはいえ、いぜん未解明な部分も多く、住民は悲惨な境遇にある。二月二日に開かれる「ビキニ水爆被災五〇周年研究会」が、ビキニだけでなく太平洋核実験全体の犯罪性を明らかにする、新たな出発の場となることを願っている。

(東京国際大学教授)



## 五〇周年記念プロジェクト記念事業の紹介

一月号につづいて記念プロジェクトの主な行事・企画を紹介します。

マリーシャル被曝五〇年と地球  
一月二〇日～一月二三日

特別展示——久保山愛吉さんへの手紙

フォトジャーナリスト豊崎博光氏の企画構成による特別展。同氏は、マリーシャル諸島をはじめ世界の核被害者の姿をカメラに収め、核兵器がもたらした被害、その非人道性、長く続く放射線障害を明らかにし、核兵器の製造・実験・配備・使用への告発をつづけてきました。今回の展示は、

九月二三日～一〇月一七日

第五福竜丸展示館には、事件後東京の病院に入院した第五福竜丸の乗組員に宛てて全国から寄せられたお見舞いの手紙が約三〇〇〇通あります。

とくに久保山愛吉さんと家族宛てのものが二五〇〇通余り、これは展示館の建設が実現した記念に久保山さんずさんから寄贈されたものです。この手紙には庶民の中に残る戦争の傷跡や当時の世相が色濃く反映しているとともに、人びとの温かい気持ちも伝わってきます。

\*

この時代の様子を紹介をふくめ、初めて百通余りの手紙を展示します(焼津市歴史民俗資料館の協力を得ます)。

このほか、前号で紹介した手記の募集や資料・情報の提供をよびかけています。また、長年にわたり久保山忌俳句大会を実施されている新俳句人連盟よびかけの俳句展や市民団体、研究団体などの協力をすすめます。

# 原水爆禁止署名運動の始まり 杉並の主婦たちの真摯な行動

小林 五十鈴

杉並にも風化させてはならない女性たちの歴史がありました。

日本は一九四五年八月六日に広島、九日に長崎に原爆の被害をうけ、敗戦を迎えました。戦後の混乱の中、国際法学者安井郁氏は婦人の会合に呼ばれて講演会等をされましたが、できれば読書会形式の社会教育を試みたいと考えておられました。

子育てをする母親たちの社会教育は特に大切であり、そのためには施設の必要性を訴え、杉並区立図書館の隣にだれもが集える杉並区立公民館を一九五三年一月一日に開館させることができました。同年一月七日、公民館の会議室に杉並区立桃井第二小学校PTAを中心に二四人の主婦たちが集まり、読書会「杉の子会」が始まりました。杉の子会の目的を安井氏は

「真実を求める婦人達の読書会で、これに入会するただけの資格は、ひたすらに真実を求める気持ちを持っていますかどうか」と言っています。

「学歴や教養はまったく問題でなく、学歴や教養を誇る人は、杉の子会の会員としてふさわしくない」とも語っています。

万人が明るい生活を送ることのできる新しい社会はどうしてつくられるかを杉の子会で真剣に探求し、たえず前進する歴史とともに、一人ひとりが自分のものの見方を深めていったと思われまます。

\*

婦人の読書会にも文学書を味わう会、宗教書を究める会などありますが、杉の子会は社会科学の本を読む会にすることを安井氏は考えられました。戦後のきびしい時代には、婦人の社会的開眼がなにより

も必要であると信じ、戦争を

にくむ母親の感情は尊いが、それだけでは平和を守ることにはできない。社会科学を学ぶことによって、戦争がどうしておこるか、それを防ぐにはどうしたらよいかなどを究め、平和を守るために、E・Hカーの『新しい社会』から読んで学習を始めました。

安井氏は「社会科学の分野は、普通の主婦や母親たちにとつてまったく未知の世界では骨が折れるが途中で、もうついて行けないと感じた方はそこで落伍しないで頑張つて歩み続けて行くと、いつしか視野がひろげられる」と励まされました。

桃二小学校PTAを中心に、二四人でスタートしましたが会員は荻窪、三鷹方面からの参加で一番多いときは一〇〇人にもなっていました。

\*

読書会が始まって四ヶ月後の一九五四年三月一日にビキニ環礁で焼津のマグロ漁船第五福竜丸が、アメリカの水爆

実験で被災しました。事件は

日本国民を驚かせ、放射能の恐怖が食生活を不安におとしました。杉の子読書会の会員は、自分たちに出来ることは何かを話し合いました。

「署名運動をしましょう」という一人の会員の意見にみんなが賛成しました。

丁度、婦人参政権行使を記念した婦人の集まりに、魚屋さんからも声が上がりが安井館長などが中心となって署名運動の杉並協議会が結成され、杉並区内の大きな運動になっていきました。

日本では三二〇〇万、世界で六億七〇〇〇万と沢山の署名が集まった運動のなかで、杉の子会がどうゆう役割を果たしたかは当時の新聞や、雑誌にも掲載され、広く認められております。

「杉の子会」の名称は童謡

「お山の杉の子」からとられたと聞いています。まるまる坊主の禿げ山に、ちよっぴり目を出した杉の子のように、謙虚な態度で勉強しようという気持ちを込めて付けられました。

した。

戦後五九年たった今日、国連憲章の前文にうたわれてる「われら戦争を体験した者は将来の世代に決して戦争を起ささないように」をみんな再度確認して、歴史は繰り返すのでなく一人ひとりの叡智によって新たな社会のペー지를切り開くことができますと信じたいと思います。(地域女性史をつくる会代表)

\*

◇聞取り記録集「杉の子会で学んだ女性たち」頒価五〇〇円、問合せ電話〇三―三三三四―〇三一六 小林方まで。

ビキニ水爆実験被災50周年記念出版  
**図録 = 写真でたどる第五福竜丸**  
 編・発行―第五福竜丸平和協会  
 発売―平和のアトリエ  
 ◇船体・所蔵資料カラー写真、福竜丸のあゆみ、解説など  
 ◇A 4判 104頁 発行記念 特価 1800円

## 展示リニューアル、特別 展示見学会は2月14日

50周年記念プロジェクトの柱の一つである展示館のリニューアル・オープンの見学会が、2月14日の午後2時からおこなわれます。このリニューアルと合わせてすすめてきた平和協会の所蔵資料の巡回特別展示もスタートします。

見学会には、リニューアル展示と特別展を後援された東京都をはじめ朝日・毎日・読売新聞各社の代表や夢の島の熱帯植物館や第五福竜丸平和協会関係者が参加します。

また、記念出版として初めての図録『写真でたどる第五福竜丸』もこの日に完成します。

## ビキニ事件記念のつどい、 新藤兼人監督のお話と映画 「第五福竜丸」の鑑賞会

◇2月28日(土)  
午後2時より5時  
会場・夢の島マリーナ会議室

第五福竜丸の被災から50年、事件以後に生まれた世代は7割近くに達します。今年は、「第五福竜丸を知らない世代につたえよう」との構想で、事件をドキュメンタリータッチに描き、久保山愛吉さんをはじめ23人の乗組員と事件関係者の表情をとらえた映画「第五福竜丸」を鑑賞します。

当日は、現役最高齢の新藤監督がおこしくださり、製作のエピソードや核に関するお話を伺います。監督は、一昨年映画監督としては黒澤明につづいて2人目の文化勲章を受章され、91歳のいまも新しい作品にとりくんでおられます。

なお、つどいに先立ち、第五福竜丸

展示館のリニューアルされた展示の見学会が午後1時より開かれます。

お申し込みは、「往復はがき」にて、参加希望人数をお書きのうえお送りください。定員70名、参加費は500円(小中学生300円)です。締切りは2月15日。

## 出前ガイド「核とマグロ と第五福竜丸」

墨田区文花中学夜間学級の「総合の時間」では、「地域に学ぶ」課題として第五福竜丸展示館についての学習時間が生まれ、元同中学教員でボランティアの会世話人の遠藤昌樹さんが3日間、6時間の授業をおこないました。

同中学の生徒は、10代から90代まで、国籍も5カ国あり、専門用語など日本語ではよく理解できない生徒もいます。そこで、中国語と英語の通訳の先生にはあらかじめテキストを渡し、また、なるべく目に見える「物」を使っただけの授業を工夫しました。

展示館からは、ガイガーカウンター、第五福竜丸模型、マグロのイラスト、「死の灰」レプリカなどを貸出し

ました。

授業は、1回目に第五福竜丸の歴史と被曝(第二次大戦後の国民生活と食糧事情など、米ソの核開発競争)、2回目は核とは何か(核分裂、放射線、人体への影響など)、3回目は、放射線を知ろうということで、簡易測定器「はかるくん」を使いさまざまな物を体験測定しました。また、ボランティアの会の大幡嘉子さんが紙芝居「トビウオのぼうやは病気です」の熱演で応援参加しました。

60代後半の生徒からは、事件の記憶や雨に気をつけろといわれたという話が紹介されました。東南アジア、中国、ラテンアメリカの人たちは、事件を知らなかったが、この授業を通じて日本の現代史の一面を知ってもらえたと思います。

今後とも学校の授業の一つとして出前授業が活用されたら、展示館の果たす役割もさらに広がるでしょう、と遠藤さんは感想を述べています。

—\*—\*—\*—\*—\*—

◆1月号表紙の写真撮影は、飯田邦生氏です。追加・訂正いたします。

## ビキニ水爆被災50周年記念研究集会のご案内

◇日時 2月21日(土)  
13:30~17:45

会場 日本青年館

◇主催 日本平和学会関東地区研究会、ピースデポ、環境平和学会協賛・第五福竜丸平和協会ほか

◇おもな報告者 メアリー・シルク(マーシャル諸島短期大学核研究所所長)「マーシャル諸島被災の50年」

・中原聖乃(神戸大学大学院博士

課程)「被曝補償金にみる対立と合意形成」

・竹峰誠一郎(早稲田大学大学院博士課程)「マーシャル諸島にみる『死の灰』の今日的影響」

・コーディネーター豊崎博光(フォトジャーナリスト、世界の核被害取材研究)

—第2部は討論「ビキニ水爆被災」が今に問いかけるもの

◇参加費500円